

令和3年度 第2回 逗子市地域包括ケア会議（令和4年3月23日開催）報告

会議出席団体等から提出された地域包括ケアシステム構築の課題を、社会福祉課にて次の(1)～(5)の分類別一覧としてまとめました。

〔課題分類 (1)地域の課題、(2)地域の資源等、(3)ネットワークの構築、(4)医療と介護、福祉等の連携、(5)その他〕

1、課題別

(1)地域の課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍での外出自粛やサロンなど地域の社会参加の場が減少し、筋力、体力低下（転倒、骨折等のリスク増） ・ コロナ禍で地域活動が制限されるなか、地域との繋がりが保てるような工夫を考えていく必要がある。 (スマートフォンの活用によるつながりなども含む) ・ ACPの知識を広げる必要がある。医療介護職だけではなく、市民へも普及啓発が必要。
(2)地域の資源等	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔外科を含む総合病院が必要 ・ コロナ禍での体力低下を予防・改善するための活動場所が徒歩圏内に不足 ・ 介護老人保健施設、ショートステイの不足 ・ 地域にある会館の利用代が高い ・ 担い手の高齢化や担い手不足の課題 ・ あまり人と話さなくても参加できる活動、居場所、役割がある場、男性が参加しやすい活動の場、同じ境遇の方が集まれる場があるとよい ・ 栄養状態の改善のため、望ましい食事（バランスの取れた適量、減塩などの食事）が継続できると良いと考えます。 ・ 孤食を防ぐ食環境があると良いと考えます。
(3)ネットワークの構築	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員児童委員の不在地域のハイリスク高齢者情報収集ネットワーク ・ 災害時の事業継続について、事業所間の協力が必要になるが、その場合には行政が中心に事業継続計画を企画し、行動が必要 ・ コロナ禍での退院前カンファレンス減少、各種課題を話し合う機会が減少し、情報共有が不足。サービスが円滑に情報共有できるようなネットワークシステムの構築が必要。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 命を守るための安否確認や、事業所を越えた災害時（地震、浸水、津波、崖崩れ、感染等）のネットワークの構築 ・ 「空き家対策」と「近隣のたまり場を利用したい人」をつなぐ仕組みづくり ・ 住民活動による見守りや状況に応じた支援には対応困難なケースや情報不足があるため、専門職との連携が必要 ・ 高齢者虐待予防の為、ケアマネジャー等だけでなく、自治会等地域ぐるみの高齢者見守り体制の構築 ・ 効果的な高齢者への消費生活情報の発信方法や消費生活センターの周知方法 ・ 地域の高齢者に係る状況や課題などについて情報が入ってくることはなく、なかなか実情が見えない。 ・ 台風や地震等による災害発生時（前）においては、ふれあい収集対象の方々は自力で避難所等に行くことができず、断線等による停電発生等により連絡が取れなくなる場合が考えられます。 ・ 福祉の支援が必要な入居者（高齢者、障がい者、生活保護者等）に対する福祉部局との連携と個人情報の取扱い
<p>(4)医療と介護、福祉等の連携</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 退院時の主治医への情報提供（病院と契約している在宅専門の医療機関への紹介が多く見られている傾向がある） ・ 安全安心の薬物療法を継続のための介護職・看護職・薬剤師の連携 <p>認知症や生活困窮の個別ケースが多く、精神疾患を抱える高齢者も含め、障害や生活保護等との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対応件数自体はまだ少ないが、現状では、精神疾患に関わるケースの対応が多い。幅広い相談を受け、多機関との協働により適宜対応していくことが求められている。 ・ 多機関で円滑に協働するには、互いの機関や職種の役割等を理解している必要がある ・ 高齢世帯等の救急搬送時の状況把握、救急搬送先で本人家族の意思確認が取れず困る事態がある ・ 感染症や災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築（サービスが切れ目なく継続できるよう、主治医、多職種間の連携）
<p>(5)その他地域包括ケアシステムの構築に必要な事項に関すること</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問診療中の路上駐車許可の取得 ・ 介護保険・医療保険を利用しなくても、介護予防の観点から適切にリハビリの視点で評価や助言がもらえるような仕組み ・ 認知症老人に対する GPS 機器の装着の促進、普及 ・ 市民対象に、介護保険制度・サービス内容を勉強する機会を提供する

2、団体別（各団体より提出された課題一覧）

団体・組織	課題	課題類型(案)
逗葉医師会	<p>退院患者さんの退院後の生活、リハビリが早期に安全に行われるため（最も確かな方法は退院病院からの直接的連絡であるが時間的問題もあり）地域包括支援センター・訪問看護ステーション・逗葉医師会在宅医療相談窓口等との密なる連絡により情報を共有したい、特に病院側はそれまでの主治医を知らないことが多く、退院時、病院と契約している在宅専門の医療機関への紹介が多く見られている傾向があるため、この点の改善も図りたい。</p>	(4)医・介・福等の連携
逗葉歯科医師会	<p>在宅医療・介護連携相談室が設置されて多職種連携がスムーズになってきましたが、個人情報保護との兼ね合いで情報交換が不十分な場合があります。在宅で訪問歯科診察を実施しようとしても、基礎疾患の状況では対応できない場合もあり、病院歯科に入院して処置をしていただくこともあります。そのためにも市内に口腔外科を含む総合病院の開設が切望されております。</p> <p>訪問歯科診療には、様々な機材を積んでいくため、駐車場が確保されていないと、やむをえず路上駐車することがあります。訪問診療中には駐車違反にならないような配慮をしていただければと思います。</p>	(2)地域の資源 (5)その他
逗葉薬剤師会	<p>ポリファーマシー（多くの薬を服用することによる副作用などの有害な事）、多剤併用を如何に減らして行くかが高齢者に対する薬剤師の共通の課題になると思います。不要な薬や重複している薬を減らして、安全安心の薬物療法を継続していくためには、福祉職や看護職の方々との連携が不可欠と考えています。</p>	(4)医・介・福等の連携
<p>逗子市東部地域包括支援センター</p> <p>逗子市第二層生活支援コーディネーター</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 独居世帯を中心に担当圏域を訪問している民児協委員より、気になる高齢者（どのようなところが気になるのか）や過去・現在継続的に関わっている高齢者の情報共有や今後の支援方法について、他地域の委員も共有する事で他の事例に繋げることができる。一方では担当不在の地域も目立ち、会長・副会長を中心に報告連携しているが広い範囲のカバーや民児協委員不在地域で潜在的ニーズをもった高齢者を拾い上げることが難しい。 2. 個別ケースでは、認知症や生活困窮の個別ケースが多く、精神疾患を抱える高齢者も含め、障害や生活保護等との連携強化が必要。 3. 2年に渡るコロナ禍の中外出制限等自粛生活から心身両面での変化について、アンケート調査を行った。歩行力低下の自覚がある高齢者が91%と非常に多いことが分かり、感染対策も含め屋外での運動機会を作り行った。開催場所に近い高齢者の参加があり、継続的な取り組み…住民主体の活動（サロン等）の必要性を感じた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. (3)ネットワーク 2. (4)医・介・福等の連携 3. (1)地域の課題 (2)地域の資源

	<p>になるが、その場合には行政が中心に事業継続計画を企画し、行動をしなければ、この地域でのケアの継続が難しくなるのではないかと？</p>	(4)医・介・福等の連携
<p>ずし訪問介護事業所連絡会</p>	<p>10年ほど前から逗子市における訪問介護人材の不足とヘルパーの高齢化、今後の予測について現状と合わせて保険者等に伝えしているが、改善には至っていない。コロナにより現状はさらに悪化し、訪問介護事業所の閉鎖も出てきている。包括ケアシステムなど在宅生活を継続するにあたり、制度が整ってもそれを実行する人材がないのが大きな課題だと考えている。予防と同時に在宅で終末期を迎える高齢者が増えるなか、人材育成は重要と考える。</p>	(2)地域の資源
<p>逗葉地域在宅医療・介護連携相談室</p>	<p>1、入退院支援（詳細は情報共有シート参照） コロナ禍での退院前カンファレンス減少による情報共有が不足し、行き違い発生</p> <p>2、日常の療養生活（詳細は情報共有シート参照） 他科受診窓口が分かりづらい／コロナ禍の医療・介護マンパワー不足／コロナ禍による筋力低下に起因する転倒・認知機能低下等の影響がある。コロナ禍により各種課題（災害対策・感染対策・医療依存度の高い在宅療養・認知症・障がい、地域医療等）話し合いの減少。限られたサービスが円滑に情報共有できるようなネットワークシステムの構築が必要。</p> <p>3、急変時の対応（詳細は情報共有シート参照） 高齢世帯等の救急搬送時の状況把握、救急搬送先で本人家族の意思確認が取れず困る事態がある。</p> <p>4、看取り（詳細は情報共有シート参照） 在宅看取りについて、件数増加するも本人の意向確認できないケースも多い。 ACPの知識を広げる必要がある。医療介護職だけでなく、市民へも普及啓発が必要。</p>	<p>1.2 (4)医・介・福連携 3. (1)地域の課題 (4)医・介・福等の連携 4. (1)地域の課題</p>
<p>逗葉地域医療センター訪問看護ステーション</p>	<p>1. 感染症や災害への対応力の強化 感染症や災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築 例) コロナ感染でデイサービスやデイケア、ショートステイサービスが一時的に利用できなくなり、入浴等のサービスが受けられないときに、訪問看護が入浴介助を補い、サービスが切れ目なく継続できるよう、主治医、多職種間で連携を取って支援していきたい。</p>	(3)ネットワーク、(4)医・介・福等の連携
<p>逗葉地域通所サービス連絡会</p>	<p>1. 法令遵守を基に、円滑なサービス提供・事業運営を行う為の基礎知識の共有を行うこと 2. アセスメント能力の構築、居宅介護支援計画書を基に、通所介護計画書の作成・評価及びモニタリングスキルを学ぶ機会を設ける 3. 居宅介護事業所との連携をより具体性を持ち実行する為ディベートの機会を設ける</p>	(5)その他

	<p>4. 管理者が行うべきリスクマネジメントや経営・運営に関する研修機会を設けること</p> <p>5. 通所介護事業所の職員研修機会を設けること</p> <p>6. 介護保険法の改正や報酬改定の際に、より理解を深める為の研修機会を設けること。</p>	
介護老人保健施設 グリーンハウス 逗子	<p>逗子市内の社会資源が少なすぎることは最重要課題に挙げられる。住み慣れた地域でとの話をするのであれば逗子市に住んでいる方のどれだけの数の方が鎌倉市や横浜市、横須賀市のショートステイ先等を利用されているかの把握をし、市として必要量の提供に努めるべきであると考えられる。</p> <p>現在の状況としては逗子市には総合病院もなく、介護老人保健施設も市内に一つしかないので逗子市に住んでいる方が他地域の病院へ入院した際に退所の相談先が少ないのでどこかないですかという相談を病院のMSWからも度々受けるような状況である。</p>	(2)地域の資源
NPO 法人 オーバル	<p>1. これまで自治会とは親密な交流を図っていましたが、コロナ禍により、来年度もどうなるか予測がつかないことが課題です。</p> <p>2. 人手不足の介護従事者に対してのワクチン接種を早期に実施することを希望します</p> <p>3. 命を守るための安否確認や、事業所を越えた災害時（地震、浸水、津波、崖崩れ、感染等）のネットワークの構築</p> <p>4. 「空き家対策」と「近隣のたまり場を利用したい人」をつなぐ仕組みづくり</p> <p>5. 市民対象に、介護保険制度・サービス内容を勉強する機会を提供する</p>	<p>③</p> <p>(3)ネットワーク</p> <p>(4)医・介・福等の連携</p> <p>④(3)ネットワーク</p> <p>⑤(1)地域の課題</p>
ズシッブ連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の多くが、家から出る（コロナ）のが心配で、家族にも反対されているので、足が弱くなり、皆に追い越されていくので、つい出かけるのが嫌だとか、行事があっても欠席。 ・子供の世話になるため、逗子を離れたり自立が難しくなる人が多くみられます。 ・地域にある会館の利用代が高い ・近くで何かできることがあったら参加したい人が多いと思います。（体を動かすとか、おしゃべりをする等々） 	<p>(1)地域の課題</p> <p>(2)地域の資源</p>
逗子市社会福祉協議会 逗子市第一	<p><u>担い手確保・担い手育成について</u></p> <p>地域活動・ボランティア活動及び、各養成講座や研修会等の各事業を通して、各方面から、担い手の高齢化や担い手不足の課題があがっている。一方で、逗子市で実施する各住民アンケート等からは、住民活動等への関心や取り組みへの意</p>	<p>(2)地域の資源</p> <p>(3)ネットワーク</p>

<p>層生活支援 コーディネーター</p>	<p>欲が示されているとの話が出ていたため、市全体として他団体の活動や募集の情報を集約、また周知する仕組みがあると地域活性化につながるのではないかと感じている。</p> <p><u>地域活動（個別支援活動）と専門職の連携について</u></p> <p>お互いさまサポーターは、地域で生活する高齢者（世帯）に対して、日頃の見守りやニーズ対応を住民ボランティア（組織）として行っている。介護サービスを受けている方については、状況に応じて関わりを持っているが、対応困難なケースや情報不足等の状況があるため、住民活動と専門職との連携が課題と感じる。</p>	
<p>逗子市民生 委員児童委 員協議会 高齢者福祉 部会</p>	<p>コロナ禍での高齢者宅への訪問は、長居せず玄関先でお話するなど、感染防止対策を心掛けているが、人と話す機会が少ないコロナ禍だからこそ、訪問を楽しみにしている高齢者がいるのも現状である。サロンなどの外出機会が減少、喪失した人も多く、友人や知人との交流、会話の機会を求める高齢者へ紹介できる情報が不足している。</p> <p>高齢者の方でスマートフォンを持っている方も多いが、使い方、検索の方法の理解が不十分なため、使い方を指導してもらえる場や機会が必要。</p>	<p>(1)地域の課題</p>
<p>逗子警察署 生活安全課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症老人に対する GPS 機器の装着の促進、普及 ・高齢者虐待予防の為、ケアマネジャー等だけでなく、自治会等地域ぐるみの高齢者見守り体制の構築 	<p>(3)ネットワーク (5)その他</p>
<p>市民協働課</p>	<p>より効果的な高齢者への消費生活情報の発信方法や消費生活センターの周知方法を検討していく。啓発活動の一環として啓発物品を配布しているが、より多くの高齢者へ配布できる機会があれば、ご教示いただきたい。</p>	<p>(3)ネットワーク</p>
<p>経済観光課</p>	<p>地域の高齢者に係る状況や課題などについて情報が入ってくることはなく、なかなか実情が見えない。</p>	<p>(3)ネットワーク</p>
<p>障がい福祉 課</p>	<p>ハイリスク者については、基幹相談支援センター事業連絡会にて対象者の抽出を行い、基幹相談支援センターと市で打ち合わせ、対象となる人へ説明を行ってから登録することとしている。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響があり、対象者への説明が進まず、登録数が伸びていない。</p> <p>また、拠点事業を行う事業所の登録をさらに進めるべく、市外の事業所や、緊急時には在宅での支援も視野に入れ、訪問系事業所の登録も増やしていきたいと考えている。</p>	<p>(3)ネットワーク</p>
<p>国保健康課</p>	<p>①訪問や相談対応の際に、「日中、特に用事が無い（することが無い、行くところが無い、話す人がいない等）」と話されることが多いです。既存のボランティア活動や団体、事業等のご案内をするのですが、既に人間関係ができていますので、1回参加するものの参加は継続しない方が散見されます。また、女性の割合が多いため、男性の継続参加につながらな</p>	<p>①～④ (1)地域の課題 (2)地域の資源</p>

	<p>いことも多いです。また、未病センター等で個別の相談を受けますが、がん患者の方、介護遺族の方、妻（夫）を看取られた方などのうつ状態の方が少なくありません。（同じ境遇の方と話せば、ピアカウンセリングとなり、改善につながると思います）</p> <p>→あまり人と話さなくても参加できる活動、居場所、役割がある場、男性が参加しやすい活動の場、同じ境遇の方が集まれる場があるとよいと考えます。</p> <p>②転倒・骨折により介護保険サービスを使い始める方が少なくないので、運動しやすいまちづくりが必要と思います。もちろん自宅でもどこでも運動はできるのですが、本人の意思がないと続きません。</p> <p>→誰かがやっていると行動はうつり易いので、つい動いてしまう環境を、自己負担なしでつくれると良いと考えます。</p> <p>③糖尿病や低栄養の方とお話すると、特に一人暮らしの方で、食事の準備を負担に感じ、食生活の単調さ、栄養素の偏りがみられる方がいます。</p> <p>→栄養状態の改善のため、望ましい食事（バランスの取れた適量、減塩などの食事）が継続できると良いと考えます。</p> <p>④孤食を防ぐ食環境があると良いと考えます。</p> <p>→コロナ禍の対策案を模索中です。</p> <p>(3)～(4) ネットワークの構築、医療と介護、福祉等の連携に関すること：以前に比べ、相談などしやすい環境になりつつあると思いますので、今後も、より連携を強化していきたいと考えます。</p>	
<p>環境クリーンセンター</p>	<p>台風や地震等による災害発生時（前）においては、ふれあい収集対象の方々には自力で避難所等に行くことができず、断線等による停電発生や電話連絡が不可能となった場合は、地域包括支援センター、ケアマネジャー、ヘルパーの皆さんから連絡が取れなくなる場合が考えられます。</p>	<p>(3) ネットワーク</p>
<p>都市整備課</p>	<p>福祉の支援が必要な入居者（高齢者、障がい者、生活保護者等）に対する福祉部局との連携と個人情報の取扱い</p>	<p>(3) ネットワーク</p>
<p>社会福祉課 (地域共生係)</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染予防の継続と感染拡大状況下でも継続できる、コロナ禍における新しいフレイル予防、介護予防の取り組みを検討する必要がある。</p> <p>毎年実施している介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（対象者：要介護者、施設入所者を除く 65 歳以上の市民約 5,000 人、回収率約 75%）の結果を確認し、コロナ禍における高齢者の生活機能リスク変化に応じた、取り組みを検討、実施が必要。*2021 年（令和 3 年）実施の調査結果は現在最終集計中。</p> <p>地域介護予防活動支援事業（サロン、通いの場）の再開支援</p>	<p>(2) 地域の資源</p>

